独立行政法人農業生物資源研究所の平成１７年度に係る業務の実績に関する評価結果

農林水産省独立行政法人評価委員会農業技術分科会

１　総合評価

（１）評価ランク　A

（２）評価に至った理由

「Ⅰ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、法人の主要な業務である研究開発を含む「Ⅱ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「Ⅶ　その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項」については、中期計画に対して業務が順調に進捗した。一方、「Ⅲ　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画」については、取り組みがやや不十分であった。全体としては、業務は順調に進捗したと判断し、Aと評価した。

（３）総合所見

独立行政法人農業生物資源研究所（以下「生物研」という。）は、国民生活及び社会経済の安定に資する農業の生産性の飛躍的向上や、農産物の新たな需要・新生物産業の創出に不可欠な生物機能の効率的利用技術の開発と、これを支える基礎的研究を実施している。そのため、世界をリードする生命科学の基盤研究を目指すとともに、生物関連産業のための革新的な技術開発を、業務運営全般の効率化を進めつつ行うことが求められている。このような観点から、平成 17 年度の業務の実績について調査・分析し、評価した結果は以下のとおりである。

○ 主要な業務である研究開発については、イネゲノム、カイコゲノムの解読、遺伝情報等各種のデータベースの整備と利活用の促進により、ゲノムサイエンスを活用した農業及び生命科学の発展に大きく貢献していることは高く評価できる。特に、イネゲノム解読の成果を活用した脱粒性遺伝子の単離及び出穂期関連遺伝子群の相互作用の解明などは計画を上回る成果であり、評価できる。

○ 管理・運営については、研究支援体制の整備、研究評価方法と研究資金の配分方法などの工夫が成果につながっているとみられ、評価できる。財務運営については、今後、内部監査体制の充実等経営管理体制の強化について引き続き努力することが必要である。

２　各大項目ごとの評価

Ⅰ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

①評価ランク　A

②評価に至った理由及び所見

中期計画に対して業務は順調に進捗したと判断し、Aと評価した。特に、ピア・レビューの実施等による評価、研究グループ長の裁量に委ねる予算配分方式等の仕組みの整備は評価できる。また、ゲノム研究などにおいて、国内外の連携、協力の促進により当該分野の研究を主導的に推進したことは評価できる。また、管理事務業務の効率化に取り組み、効果をあげている。なお、研究職員の業績評価結果は、研究職員の処遇に反映させる必要がある。

項目ごとの所見は以下のとおりである。

『１　評価・点検の実施』

研究の活性化を目指したピア・レビューの実施等による評価、研究グループ長の裁量に委ねる予算配分方式等の仕組みの整備は評価できる。研究職員の業績評価が実施され、研究管理職員については、処遇に反映させた。今後、評価結果を研究職員の処遇にも反映させることが必要である。

『２　研究資源の効率的利用』

競争的資金の確保については、事前審査の徹底により組織として資金獲得の努力を行っているが、獲得額は減少しており、一層の努力が必要である。スペース課金は、資金のあるグループのニーズを満たす斬新な良い取り組みであり、評価できる。閉鎖系温室、隔離圃場を効果的に使い、遺伝子組換え作物の研究を引き続き実施することを期待する。

『３　研究支援の効率化及び充実・高度化』

ポスドク、専門技術を有する補助職員の雇用により、研究支援の充実と高度化が認められる。また、知的財産権の取得及び移転に係る体制が強化された。免許・資格の取得、各種研修により研究支援職員の技能、技術の高度化が図られている。

『４　連携、協力の促進』

イネゲノム全塩基配列完成を受け、（独）産業総合技術研究所、国立遺伝学研究所と共同で国際イネアノテーション計画を組織し、国際協調下でイネの情報基盤整備を主導的に実施した。また、西南大学を中心とする中国研究チームと「カイコゲノム塩基配列の統合」に合意した。イネゲノムでの国際的イニシャチブ確立に加え、カイコゲノムについて日中での協力関係を確立したことは評価できる。また、米国コーネル大学及びミネソタ州立大学、エジプト農業研究センターと共同研究覚書を交わした点も、研究の連携、協力の観点から評価できる。

『５　管理事務業務の効率化』

外部委託の内容を精査し、競争入札の実施及びより広い公募などにより、委託契約金額が低減された。新規に 850 誌の雑誌についてオンライン化が進められた。つくば地区のキャンパスを５地区から４地区に集約し、事務管理の効率化が図られた。今後とも、管理事務業務の効率化について、一層の取り組みを期待する。

『６　職員の資質向上』

職員の資質向上に資するため、研究職員を生物研独自の在外研究制度により海外に派遣している点は評価できる。また、博士号の取得や各賞の受賞等において、職員の資質向上へ向けた努力の成果が認められる。

Ⅱ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

①評価ランク　A
②評価に至った理由及び所見
　中期計画に対して業務は順調に進捗したと判断し、Aと評価した。
　研究開発業務は着実に進展していると判断できる。ゲノム関連の業績は顕著であり、評価できる。この分野における世界のトップレベルの論文も数多く公表されている。今後はゲノム情報の公開、遺伝子の配布などにより成果が広く活用されることが求められる。項目ごとの所見は以下のとおりである。

『１　試験及び研究並びに調査』
　「Ⅱ－１－Ａ　ゲノム生物学等を利用した生命科学研究」については、多くの研究小課題で卓越した成果があがっている。脱粒性遺伝子の単離及び出穂期関連遺伝子群の相互作用の解明などめざましい発展があった。茎葉伸長のプロテオミクス解析、さらに新規のジベレリン誘導性遺伝子の発見など進展がみられる。イネの３種のフィトクロム分子種間での役割分担を解明するなど着実な進展がみられる。
　「Ⅱ－１－Ｂ　農林水産業の飛躍的発展を目指した革新技術の開発」については、マウススギ花粉症用組換えイネのマウスにおけるアレルギー抑制効果の確認など着実な進展がみられる。ナシ黒斑病耐病性品種の不定芽胚のキメラ性の確認、チャ炭そ病の検定法の効率化や抵抗性品種の選抜などに進展がみられる。
　「Ⅱ－１－Ｃ　新産業の創出を目指した研究」については、種子タンパク質蓄積に対するジスルフィド結合の影響の解明、ダニアレルゲン発現米のマウスでの効果の確認など着実な進展がみられる。フィブロインやセリシンの構造や性質の解明において、着実な進展がみられる。ガンマフィールドは貴重な施設であることから、今後も有効に活用することを期待する。
　「Ⅱ－１－Ｄ　バイオテクノロジーを支える基盤技術の開発」については、オオムギ条性遺伝子の単離などの成果は評価できる。コムギ、ダイズ等の形質転換効率を上げる方法の改良など進展はみられるが、再分化能の向上や直接遺伝子導入法の開発については、なお一層の努力を期待する。
　「Ⅱ－１－Ｅ　生物遺伝資源の収集、評価、保存・増殖、配布、情報管理」については、イネゲノム配列の精度の高いアノテーションデータベースの公開などにおいて重要な貢献があった。

『２　専門研究分野を活かした社会貢献』
　大学、他独法、及び海外から講習生を受け入れ、研究者の技術水準の向上に寄与している。また、農林水産省、内閣府、国際機関、学会などへ、専門知識を活かして積極的に協力しており、評価できる。その他、放射線育種場での依頼照射、宮内庁紅葉山御養蚕所の蚕種に対する母蛾検査等を実施している。

『３　成果の公表、普及の促進』
　普及に移しうる成果のフォローアップ調査を実施していることは評価できる。今後とも、フォローアップ調査による成果の普及状況の把握に努めるとともに、結果を分析し、成果の普及に役立てることを期待する。研究リソースの整備が進み、ゲノム関係、遺伝資源関係とも配布され、利活用されている。ゲノム情報についてはホームペ

ージなどを活用し、情報提供に努め、成果をあげている。成果発表、広報活動の充実がみてとれる。学術論文の成果については、中期計画の目標値は達成したものの、平成 17 年度に限れば、論文数が年度計画値にとどいていない。しかしながら、論文の質は向上している。今後は、論文の数及び質を一層向上させることを期待する。国内特許出願数が中期計画の目標値に到達していることは評価できる。引き続き、特許取得への積極的な取り組みを期待する。

Ⅲ　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

①評価ランク　B

②評価に至った理由及び所見

中期計画に対して業務の進捗がやや遅れたと判断し、Bと評価した。

会計検査院の平成 16 年度決算検査報告において、施設整備費補助金で施工した改修工事において､監督及び検査が十分でなかった等の指摘を受けたことは遺憾である。これを踏まえ、生物研としての体制の見直し等の再発防止対策の措置が決められているが、今後とも、監査・検査体制の強化等の管理体制の充実が必要である。外部委託の契約にあたって、競争契約の拡大などにより、契約金額の低減が図られた。燃料、通信運搬費、庁舎の管理業務などについて効率化を図った。研究課題ごとに投入した研究者数、研究費と得られた成果が対比でき、所内の課題評価検討会において分析を行っている点は評価できる。今後、分析結果を研究資源の効率的な配分に活用することを期待する。

Ⅶ　その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

①評価ランク　A

②評価に至った理由及び所見

施設及び設備に関する計画、人事に関する計画については、順調に進捗したと判断される。

項目ごとの所見は以下のとおりである。

『１　施設及び設備に関する計画』

アスベスト対策改修が予算化され、施工計画を作成しており、引き続き施工することとしている。その他の業務についても、的確に進められていると判断される。

『２　人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）』

研究チーム長の公募を行った点は評価できる。任期付任用、選考採用、試験採用などにより人材を確保している。

（参考）本評価において用いた評価ランクは以下の３段階である。

Ａ：計画に対して業務が順調に進捗している

Ｂ：計画に対して業務の進捗がやや遅れている

Ｃ：計画に対して業務の進捗が遅れている